

産業連関表で用いる主な用語の解説

用語	説明
I-O	「Input-Output Tables」の略で、直接の邦訳としては、「投入・産出表」ですが、「産業連関表」の英訳としても使用されます。
投入・産出表	産業連関表の別称。産業連関表が各部門の投入構造と産出構造を表すものであることに起因します。
取引基本表	各部門の投入構造と産出構造を金額で表した表であり、産業連関表と総称される各種統計表の中核となる表です。他の統計表は、取引基本表に基づいて作成されています。そのため、取引基本表を指して「産業連関表」「投入・産出表」と呼称することもあります。
部門	産業連関表を表章する際の区分のことをいいます。 行部門は、商品の販路構成を表す部門であることから、原則として商品により分類されており、列部門は、原則として「生産活動単位」、いわゆるアクティビティベースにより分類されています。
行部門	産業連関表におけるヨコの計数の並びをいい、財・サービスの販路構成（産出）を示します。 中間需要と最終需要に大別されます。
列部門	産業連関表におけるタテの計数の並びをいい、財・サービスを生産するための費用構成（投入）を示します。 中間投入と粗付加価値に大別されます。
国内生産額	我が国に所在する事業所による生産活動及び取引の総額をいい、中間需要と最終需要の合計（総供給）から輸入でまかなった分を除いた額をいいます。 投入や産出は、国内生産額の内訳として示されます。 なお、最終需要から家計外消費支出及び輸入を除いたものが、国内総生産（支出側）に相当します。

投入	財・サービスを生産するための費用構成をいいます。産業連関表では、タテの計数の並び（列部門）として表章され、中間投入と粗付加価値額の合計額が国内生産額に一致します。
中間投入	財・サービスを生産する上で必要とされる原材料等（財・サービス）を、他の部門から投入（＝購入）することをいいます。
粗付加価値	各部門の生産活動によって生み出された付加価値であり、雇用者所得、営業余剰などが含まれます。
産出	財・サービスの販路構成をいいます。産業連関表では、ヨコの計数の並び（行部門）として表され、中間需要と最終需要の合計額から輸入を差し引いた額が国内生産額に一致します。
中間需要	財・サービスを、他の財・サービスを生産するための原材料等として産出（＝販売）することをいいます。
最終需要	生産された財・サービスを、家計、政府、輸出など取引の最終段階として消費することをいいます。
投入係数	中間需要の列部門ごとに、原材料等の投入額を当該部門の生産額で除して得た係数のことをいいます。 また、これを列部門別に一覧表にしたものを「投入係数表」といいます。
逆行列係数	ある部門に対して新たな最終需要が1単位発生した場合に、各部門の生産が究極的にどれだけ必要となるかという生産波及の大きさを示す係数。その算出方法を踏まえ、数学上の用語を用いて、このように呼称されます。産業連関表の発明者の名前を冠して、「レオンチェフ逆行列」と呼ばれることもあります。 また、これを産業別に一覧表にしたものを「逆行列係数表」といいます。
波及効果	最終需要が新たに発生することにより、自ら又は他の産業に生産活動に与える効果のことをいいます。逆行列係数表を使用することにより計算することができます。